

高温傾向で収穫時期が早まる見込み、刈遅れに注意しましょう！

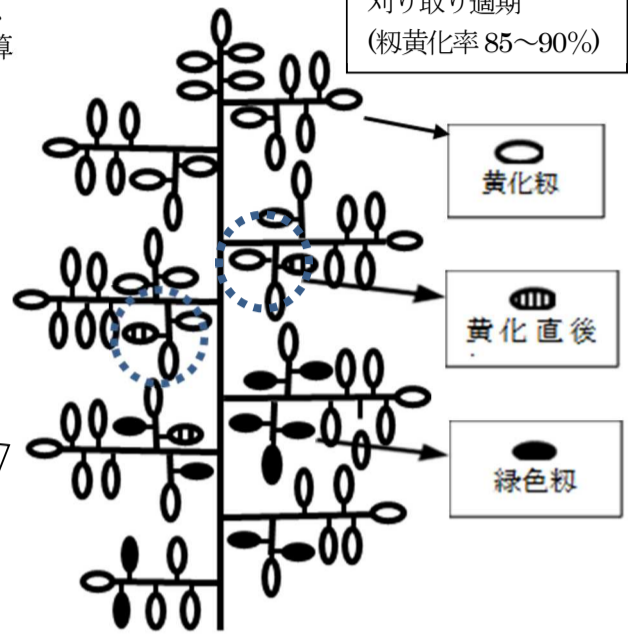
1 収穫時期の判断 ～ 必ずほ場ごとに籾の色を確認し、収穫時期を判断しよう！ ～

(1) 積算気温によるコシヒカリの収穫適期めやす 【アメダスデータから推定されるコシヒカリ収穫適期 8月20日現在】

出穂期		7/28	7/31	8/3	8/6
収穫適期のめやす※	糸魚川地区	9/1	9/5	9/8	9/12
	能生地区	9/4	9/7	9/11	9/15

※8月19日までは本年値、20日以降は平年値で積算
 ※アメダス測定地点
 糸魚川地区：東寺町
 能生地区：平

刈り取り適期
(籾黄化率 85～90%)



- ・本年は高温登熟で、基部未熟粒などの白未熟粒や胴割粒の発生が懸念されることから、積算気温950℃(ただし山間部は1,000℃)をめやすとし、**ほ場ごとに下記を参考に登熟状況を確認して刈遅れないように**しましょう。
- ・ひすい営農センターの農業情報メール、LINE等で定期的に各地域の積算温度の情報を発信しますので、その数値も参考に判断してください。

(2) ほ場ごとの収穫適期の見分け方

- ・収穫適期は、穂の中の黄化した籾の割合が85～90%、穂の上から4、5番目の一次枝梗の根元の籾に青みが残る程度です。
- ・早刈りは青米・未熟粒の混入増加や収量低下の原因となり、刈遅れは基部未熟粒・着色米・胴割粒が増加して品質低下を招きます。
- ・特に、本年は高温の影響により基部未熟粒や胴割粒などが発生しやすい状況なので適期刈取りを心掛けましょう。

フェーン現象が予測される場合は、できるだけフェーン前に収穫を行い、胴割粒の発生を防ぎましょう！
 ～10月上旬まで「フェーン・コメの高温障害危険度予測情報」を振興局のメールマガジンで配信しています～

2 乾燥・調製 ～ こまめな確認で高品質への最終仕上げをしよう！ ～

(1) 乾燥

- ・生籾は変質しやすいため、収穫後は速やかに乾燥機に入れ通風を行いましょう。
 - ・手持ちの水分計で適正水分の14.5%から15%になるよう随時測定して仕上げましょう。
 - ・水分は玄米の温度が常温になってから、青米や未熟米を取り除いて測定しましょう。
- ※出穂後10日間の最高気温が高温の場合や成熟期にフェーン現象にあった場合は、立毛胴割れが発生している可能性が高いので、毎時乾燥速度0.5%以下になるよう送風温度を低くしましょう。

(2) 調製

- ・機械の点検・掃除を徹底しましょう。特に籾すり機のゴムロールの間隔は、脱ぶ率が80～85%になるように、0.8～1.2mmに調節しましょう。
- ・カメムシによる斑点米被害が多い場合は、色彩選別機による選別をしっかりと行いましょう。

フェーン現象時に乾燥作業を行う場合、張り込み後に通風循環した後、夜間まで半日程度貯留して水分ムラを解消させてから、送風温度を低めにして乾燥しましょう。

高温やフェーン現象が予測される場合には、振興局HPに情報を掲載するので、確認してください！

振興局HPの二次元コード



3 倒伏ほ場の刈取り、乾燥・調製時のポイント

(1) 収穫時

- ・倒伏の方向を確認し、向かい刈りを避けると共に、スピードを落として1方向からの「追い刈り」を行いましょう。

(2) 乾燥・調製時

- ・高水分籾が多くなるため、2段乾燥(水分18～20%で一旦停止、半日程度置いて再乾燥)を行いましょう。
- ・石抜き機や色彩選別機を活用し、石や土、雑草種子の米への混入を防ぎましょう。

4 土づくり ～ 次年度の作付に向けた準備を始めよう ～

(1) 土壌分析に基づいた土づくり

- ・土壌分析を行い、不足成分のみを補充する土づくりを行うことで、資材費を減らしましょう。(分析はひすい営農センターにご相談ください)
- ・土づくりによって、土壌の保水性や窒素供給力が向上すると、高温等の異常気象の年でも、品質が安定します。

施用資材例	主な成分	施用量 (10a 当たり)
越後の輝きソイル ^{マイ} 米スター	ケイ酸・カリ	30 kg
ようりんケイカル	リン酸・ケイ酸	140 kg

(2) 稲わら・籾殻等の秋すき込み

- ・秋すき込みは、春すき込みに比べ、田植え後のほ場のワキが抑えられます。春に地耐力が確保できるほ場では、秋にすき込みを行いましょう。
- ・また、ワキの抑制には鉄を含む土づくり資材(ソイルキーパーFeなど)の施用も効果的なので活用しましょう。
- ・わらが分解しやすいよう、地温が高いうち(10月上旬までがめやす)に5～10cmの浅うちですき込んでください。
- ・稲わらと合わせて籾殻の秋すき込みを行うことで、ケイ酸資材の低減が図れます。施用量のめやすは、そのほ場から得られた籾殻相当量です。

10月20日まで新潟県農作業安全運動「秋の特別運動期間」実施中です！

- ① 急な乗り入れなどの危険箇所の事前確認、② 機械が詰まったときは必ずエンジンを切る、③ 作業者と補助者が声を掛け合って位置を確認

『収量・品質向上！糸魚川産米』 ひすい「コシヒカリBLエコライス栽培」に取り組みましょう。	お問い合わせ先	JAえちご上越ひすい営農センター	TEL 0120-640-184
		糸魚川NOSA Iセンター	TEL 0120-916-406
		糸魚川地域振興局農林振興部 (農業普及指導センター)	TEL 553-1906

糸魚川市農林水産業振興協議会(糸魚川市、JAえちご上越、NOSA I新潟、糸魚川地域振興局農林振興部)